Exhibition and Event Schedule

1～3月の催し・教室スケジュール

▼企画展・イベントなど

●開催中～5月12日(日)／企画展「牧野富太郎物語」
●1月13日(土)／マキノ・トークシーン Vol.6
『定年のデザイン』のあとさき
●2月10日(土)～3月3日(日)／第18回ラン展
●3月23日(土)・24日(日)／桜の宵
●3月23日(土)～5月19日(日)／
春のフラワーショー「まきの花図鑑～博士と草木のドラマをめぐる～」

▼キッズラボプログラム

●1月20日(土)／研究者になりきってみよう!
●1月28日(日)／冬芽に注目!～冬芽観察が楽しくなるコツ 教えます～
●2月3日(土)／植物から色を取り出してみよう!～色付き石鹸づくり～
●2月25日(日)／絶滅危惧種ってなに?
～バイオテクノロジーで絶滅危惧植物を増やしてみよう～
●3月2日(土)／懐かしい?新しい?クスノキから"あの香り"を取り出してみよう!
●3月10日(日)／小さくてもスゴイやつ!?～コケのひみつにせまります～
●3月16日(土)／ようこそ!'羊歯(しだ)'の世界へ
●3月24日(日)／小さくてもスゴイやつ!?～コケのひみつにせまります～

▼マキノ・ボタニカルクラブ

●1月27日(土)／ランの秘密、教えます。
●2月17日(土)／牧野博士とタンポポ

【キッズラボプログラム、マキノ・ボタニカルクラブの申込方法】
当園ホームページの「イベント・植物教室」のなかの植物教室ページからお申し込みください。電話、Fax、入園窓口、および当日会場ではお申し込みいただけません。あらかじめご了承ください。

●申込先　ホームページ www.makino.or.jp
●申込開始日
キッズラボプログラム　開催前月の第1水曜日 9:00～(先着受付順)
マキノ・ボタニカルクラブ　開催前月の第2水曜日 9:00～(先着受付順)

▼教室

●1月21日(日)／見ごろの植物ガイドウォーク 当日受付
くらしの植物教室
●2月4日(日)／ハーブの教室
●2月18日(日)／見ごろの植物ガイドウォーク 当日受付
●3月16日(土)／シンビジウムの育て方教室
●3月17日(日)／見ごろの植物ガイドウォーク 当日受付
●毎月第2水曜日・第4日曜日　10:00～／草花を描く
●毎月第2水曜日・第4日曜日　13:30～／ふれあい植物観察会

【教室の申込方法】
当園ホームページの「イベント・植物教室」のなかの植物教室ページ、またはFaxからお申し込みください。入園窓口でも直接お申し込みいただけます。
●申込先　ホームページ www.makino.or.jp　Fax 088-882-8635
●申込開始日　開催前月の第1水曜日　9:00～(先着受付順)

※企画展・イベント・教室等の内容を変更または中止させていただく場合があります。最新情報はホームページでご確認ください。

Information

牧野植物園からのお知らせ

2024年牧野植物園オリジナルカレンダー
「牧野富太郎 植物図12ヶ月」が発売

牧野博士の精細な植物図が一年間を彩る、当園オリジナルカレンダーが完成しました。連続テレビ小説「らんまん」に登場したことで注目度が一層高まった植物を中心に、各月にふさわしい図を厳選しています。精密さと美しさを兼ね備えた博士の植物図を、毎月ページをめくりながらお楽しみください。園内ショップのほか、nonocaのオンラインショップなどでも販売中です。

Shop information

ショップからのお知らせ

牧野ミュージアムショップ サクラ

牧野博士の描いたバイカオウレンの植物図をモチーフにデザインされたエコバッグ。ナチュラルな風合いでふだん使いにも最適です。nonocaのオンラインショップでも販売しています。

栂花黄連バッグ
(きなり・グレージュの2色)
2,970円(税込)
＜高知県立牧野植物園ブランド商品＞

周遊観光バス「MY遊バス」のご案内

●JR高知駅から牧野植物園までMY遊バスで約30分。
●MY遊バス乗車券を牧野植物園の窓口に提示で、入園料100円引き。
●料金／[五台山券 (JR高知駅←→竹林寺前)]
大人(中学生以上)600円　子ども(小学生)300円
●MY遊バスに関するお問い合わせ
運行について／とさでん交通(株) Tel 088-833-7171
乗車券について／(公財)高知県観光コンベンション協会Tel 088-823-1434

高知県立牧野植物園 ご利用案内

[開園時間] 9:00～17:00(最終入園16:30)
[休　園　日] 年末年始(12/27～1/1)
[メンテナンス休園日] R6/1/29、6/24、9/30、11/25、R7/1/27
[入　園　料] 一般730円(高校生以下無料)
団体630円(20名以上)、年間入園券2,930円
※身体障がい者手帳、精神障がい者保健福祉手帳、療育手帳、戦傷病者手帳、被爆者健康手帳所持者と介護者1名および高知市・高知県長寿手帳所持者は無料

[交通案内]
はりまや橋から車で約20分
高知自動車道「高知IC」から一般道で約20分
高知東部自動車道「高知南IC」から約15分
高知龍馬空港から高知東部自動車道経由で約25分
※道路案内板の「五台山」または「牧野植物園」「竹林寺」を目指してお越しください。

高知県立牧野植物園 友の会 会員募集

[特典] ※会員ご本人のみの特典です。
①窓口で会員カードを提示していただくと、入園料無料。
②「牧野植物園だより」(年4回発行)や、催し物案内を定期郵送します。
③牧野植物園が主催するイベントや教室に会員価格で参加できます。
④本館のカフェ arbre、ボタニカルショップ nonoca ご利用時にカードを提示していただくと、現金でのお支払い時のみ 5%の割引が受けられます。
(植物研究交流センター 3 階のレストラン C.L.GARDEN および牧野ミュージアムショップ サクラでの適用はありません。また一部割引除外品があります。)
[会費] 普通会員／年額 4,000 円　賛助会員／年額 10,000 円
[お申し込み・お問い合わせ] 088-882-0448 友の会担当まで

牧野植物園ロゴマーク:バイカオウレンの葉
バイカオウレンは、早春に小さな白い花を咲かせます。高知では春一番を告げる花として、牧野富太郎博士が特に好んだといわれています。晩年東京で暮らした牧野博士にとって故郷を思わせる懐かしい植物でした。

高知県立牧野植物園だより No.94 令和5(2023)年12月26日発行
[編集・発行] 公益財団法人 高知県牧野記念財団
〒781-8125 高知市五台山4200-6 高知県立牧野植物園
Tel 088-882-2601　Fax 088-882-8635
[印刷] 有限会社 西村謄写堂
www.makino.or.jp

Kochi Prefectural
Makino Botanical Garden News
令和5(2023)年 冬号 No.94

高知県立 牧野植物園だより

スエコザサ [イネ科]
Sasaella ramosa (Makino) Makino
var. *suwekoana* (Makino) Sad.Suzuki

宮城県や岩手県南部に分布する。牧野富太郎博士が、昭和2(1927)年に仙台市三居沢で発見し、翌年4月18日刊行の『植物研究雑誌』に妻・壽衛の名を付け新種「*Sasa suwekoana*」として発表した。壽衛はこの誌面を見ることなく2月23日に永眠。「花も咲かず、目立たない草むらにじっとひそまりながら、風が吹くとさやさやとなつかしい音をさせる笹は、まことに家内にふさわしく思われた」と牧野博士は語っている。現在はアズマザサの変種とされる。

Report

ありがとう「らんまん」

ドラマでの交流を通じて

「らんまん」関係者の皆さまと記念撮影（高知新聞社提供）

連続テレビ小説「らんまん」（NHK）最終回の放送日の9月29日（金）、高知市内で開催された「最終回を見る会」（NHK主催）終了後に、神木隆之介さんと浜辺美波さん、そして波多野泰久と藤丸次郎を演じた前原滉さんと前原瑞樹さん、演出の渡邊良雄さん、制作統括の松川博敬さんにご来園いただきました。当日になって来園されることをはじめて知る職員も多く、皆大興奮で拍手喝采でお迎えしました。

神木さんから「『らんまん』を通して、植物園や植物へ触れることができ幸せだった」とお言葉をいただき、職員一同、感動と喜びに包まれました。川原信夫園長と高知県観光振興部 依光香代子副部長から、「放送が無事に終了し、多くの方に聖地となった高知県や牧野植物園にお越しいただいている」とお礼を述べ、花束と記念品を贈呈しました。歴史に残る節目の日に、牧野植物園にて出演者や関係者の皆さまとお会いすることができ、一同、感無量の1日となりました。

「らんまん」制作の裏側と魅力を高知で語るトークショー開催

マキノ・ボタニカルクラブ特別編のようす

最終回目前の9月16日（土）には、マキノ・ボタニカルクラブ特別編として、スペシャルゲストに松川さんをお招きし、「らんまん」の制作の裏側や最終回までの見どころを語っていただくトークショーを開催しました。

印象に残るシーンとして、第13週の満開の桜とともに映るタキ（松坂慶子）のラストシーンに触れ、「高知ロケで桜の撮影ができたらいいなと思っていたが、桜の開花時期と天候、そして役者のスケジュールの3つが揃う必要があり、スタッフも100名ほどが動くから無理だろうと思った。でも、スタッフの調整努力と運に恵まれ実現できた。これは奇跡に近いことで、当日開花しませんでした、では通用しない。難易度が高いタイミングを全てクリアさせ、CGを使用せずに撮影することができた。これも牧野博士が見守ってくれていると思うほどだった。」と、植物を扱ったドラマの難しさを語っていただきました。会場では名シーンを思い出してうなずく方も多く見られ、「らんまん」の奥深さに酔いしれる時間となりました。

11月11日（土） 令和5年度企画展サイドイベント マキノ・トークシーンVol.5「牧野博士の話をしよう。」開催

松川さんと「らんまん」にて里中芳生を演じた作家・クリエーターのいとうせいこうさん、元当園 展示デザイナーで現在は里見デザイン室の里見和彦さんをお迎えし、当園の研究員藤川和美をファシリテーターとした座談会を開催しました。4名の牧野博士との出会いから博士が世間に与えた影響など、熱い牧野富太郎談義に花が咲きました。当日は満席でウェブでも配信を行い、多くの方にご視聴いただきました。

「イチオシ人物伝！？ 博士を支えた人々」というテーマでは、松川さんは博士を甘やかした祖母浪子と妻壽衛をあげ、「この甘やかしが富太郎を生んだと思う。ドラマでは、万太郎（神木隆之介）とタキ（松坂慶子）と寿恵子（浜辺美波）のさまざまな葛藤や壁を踏まえてストーリーにしたが、子どもを甘やかすことも大事かなと思えた。壽衛さんは牧野博士より天才だった!?」という新たな見解も。里見さんも壽衛さんについて「カッコよくサバサバして、着る物も粋で、能天気なところがあったとお孫さんから聞きホッとした。夫婦同士が開放的で、性格も似ていたのかもしれない。」と話し、苦労だけではなく、夫婦で好きなことを全うした一面についても触れました。里見さんは続けて、「次女の鶴代さんは、助手として、時に師匠のような存在で、晩年まで博士を支えた。また博士逝去後に4万5千冊の蔵書を父の故郷の文化向上のために活用してほしい、と高知県への寄贈を決めてくれた恩人でもある。この2人がいたからこそ、博士は研究に邁進することができ、今の業績がある。」と語りました。

藤川研究員は東大の植物学教室の礎を築いた矢田部良吉教授をあげ、「博士を東大に最初に受け入れた度量があった。ドラマの中の田邊彰久教授（要潤）の心の動きはとても見応えがあった。」と紹介。2人目には、博士が収集した約40万枚の標本を整理し、『牧野富太郎植物採集行動録』の編者でもある東京都立大学牧野標本館の山本正江さんはじめスタッフをあげ、「未来永劫続けていくことが大きな役割で、現在も標本整理が続けられているからこそ牧野博士の資料が生き、植物を研究することができる。」と、植物分類学者の目線で語りました。

最後にいとうさんは、子ども目線で撮影した牧野博士の生家の裏山にある金峰神社へ続く階段の写真を紹介し、「牧野博士の幼少時代は、石段に生える雑草と言われるような植物がこんなふうに見えていたのではないか。多様性が目の前にあるというのは、彼の感覚を研ぎ澄ますのにいい訓練だった。植物たちが牧野博士を教育したと思う。彼にしたら植物は話しかける存在だから、まさに人間のような存在だったと思う。」と熱弁。最後に「らんまん」への出演や、博士や植物が好きで繋がったご縁について、「里見さんや松川さんともこうやって繋がった。好きを貫くということは才能や努力がいることだが、本人と周りをどれほど幸せにするかということも伝えたい。」と締めくくりました。

牧野博士の話題が尽きず、早くも第2弾を要望する声を多くいただいた座談会となりました。

（小松加枝）

マキノ・トークシーンVol.5のようす

News

今年度の入園者数が30万人に到達

開園以来最多記録を更新中

奥住さんご一家とともに30万人到達をお祝い

今年度の入園者数が、過去最多だった令和4（2022）年度の214,304人を大きく上回り30万人に到達しました。これは昭和33（1958）年の開園以来はじめてのことです。10月27日（金）に30万人目の入園者をお迎えし、本館ウッドデッキにてセレモニーを執り行いました。

平日も多くの来園者でにぎわう園内

記念すべき30万人目となったのは、兵庫県姫路市から3世代7名で来られた奥住（おくすみ）講平（こうへい）さん・恵（めぐみ）さんご一家。セレモニーでは川原園長とともにくす玉を割ってお祝いし、当園から花束と牧野博士の植物図をあしらったグッズなどの記念品を贈りました。奥住さんからは「高知が好きで年に数回訪れるが、そのなかでも一番の思い出の場所になると思います」と非常に嬉しいお言葉をいただきました。

今年度は連続テレビ小説「らんまん」（NHK）の放送を契機に、県内外また個人・団体を問わず大変多くの方にご来園いただいています。「らんまん」放送終了後の10月には入園者数が54,838人に上り、月別でも過去最多となりました。現在開催中の企画展、さらに冬の恒例イベント「ラン展」やバイカオウレンなど博士ゆかりの植物の開花も控えていますので、引き続き多くの方に足を運んでいただきたいと思います。来園者の皆さまに博士の業績や植物の魅力に触れながら園内散策を楽しんでいただけるよう、これからも職員一丸となって取り組んで参ります。

（橋本渉）

News

第38回「龍馬賞」を受賞

世界に誇れる植物園として邁進

授賞式のようす

令和5（2023）年11月、当園は第38回「龍馬賞」を受賞しました。「龍馬賞」（主催：龍馬賞基金、代表：福島清三（ふくしま せいぞう）氏）は県内の報道各社でつくる「高知報道十一社会」が選考し、社会、文化、教育、スポーツなどさまざまな分野で業績をあげた個人および団体に毎年贈られるものです。

受賞の理由は「高知県立牧野植物園は1958年の開園以来、植物に関する研究・教育の発展に貢献している。また、地元の人々に親しまれるだけでなく、観光振興にも寄与している。その存在は高知県民に明るい話題と元気を与え、牧野博士が再評価される中、受賞に値すると評価した。」とのことです。

当園はこれまで園の発展を目指し、関係各位のお力添えのもと努力を積み重ねて参りました。本年は連続テレビ小説「らんまん」（NHK）の放映もありこれまで以上に牧野博士や植物が注目を浴び、県内外から多くの方にご来園いただいております。このたびの受賞の報に接し、驚きとともに大変嬉しく、また誇らしく思っています。この栄誉を、これまで職務を遂行されてきた職員や関係者の皆さま、そしてお力添えをいただいた方々とともに分かち合いたいと思います。

この流れをいっときのブームで終わらせるのではなく、牧野博士の名を誰もが知っているような人物にすべく、展示や普及活動、さらにはイベントや研究を通した業績顕彰に努めて参ります。そして世界に誇る魅力あふれる植物園へ向け総合的な発展を目指して、一層の磨きをかけていきたいと思っております。改めまして皆様方に御礼を申し上げるとともに、引き続きご支援を賜りますようよろしくお願いいたします。

（川原信夫）

Info 「タンポポ調査・2025高知県」がはじまります!

農道に生えるシロバナタンポポ

身近な植物であるタンポポの種類と分布を調べて、地域の自然環境の状況を診断するタンポポ調査が令和6(2024)年2月からスタートします。タンポポ調査は平成21(2009)年から西日本一帯で行っており、高知県もこの時から参加し、今回で4回目の取り組みとなります。調査方法はタンポポの花とタネ(瘦果)を採って、調査票と一緒に植物園内の事務局へ送るだけの、とても簡単な調査です。

前回調査のタンポポ調査2020では、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けながらも、のべ2,650名が参加し、10,091点のサンプルが集まりました。もっと多くの皆さんに調査を楽しんでいただけるよう、ホームページ上で調査の進捗状況がリアルタイムでわかり、かつ調査結果を授業や自由研究などに自由に活用できるよう、準備を進めています。乞うご期待ください。

(田邉由紀)

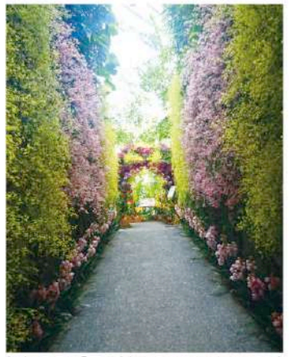
Info 第18回 ラン展「ランに恋して ようこそ! 魅惑のランワールドへ」

令和6(2024)年2月10日(土)から3月3日(日)まで、南園温室にて、恒例の「ラン展」を開催します。今回は、新しい植物やその魅力に出会った時に、牧野博士が感じたであろう「よろこび」「ワクワク感」「感動」を、ランを通じて皆さまにも感じてもらえるような空間を演出します。

多種多様なランの「香り」、「形」、「色」といった花の形態に着目したエリア、中央ウッドデッキでは前回も好評であった「博士が和名を付けた洋ラン」、ジャングルエリアでは滝や池の周りに自然となじむように植栽したランが彩ります。そして、オオオニバスの池周辺では「牧野博士が描いたラン科植物の植物図」の複製を展示します。

フォトスポットを設けていますので、お気に入りの場所で記念撮影をどうぞ。この冬、ランの魅力が満載の当園温室の「ランワールド」にぜひお越しください。

(丹羽誠一)


毎年好評の「回廊」(写真は2021年のようす)

News ふむふむ広場の植物に親しむワークショップ

多肉植物の寄せ植えづくりのようす

高知の暮らしに関わりの深い果樹や野菜、さまざまな香りや手触りのハーブ類を植栽し、見るだけでなく、匂いをかいだり触ったりして五感で植物を楽しめる「ふむふむ広場」。昨年から、多くの方に植物とふれあう機会を持ってもらい、園地の植物を身近に感じてもらうことを目的として「ふむふむ広場」内に植栽している植物を題材にした当日受付のワークショップを開催しています。

2年目となる本年は、10〜12月に毎月1回ワークショップを開催。10月には多肉植物の寄せ植えづくり、11月にはフレッシュハーブの採取体験も交えたオリジナルコロンづくり、12月には高知ゆかりの野菜を使ったドライベジタブルのスワッグづくりを行いました。いずれの回も子どもから大人まで幅広い年齢層の方にご参加いただき、植物に親しみつつ思い思いに植物素材のものづくりをお楽しみいただきました。

(岡林未悠)

News ほぼ日手帳と牧野博士の植物図のコラボ商品シリーズ第5弾が完成

株式会社ほぼ日(東京都千代田区)は平成30(2018)年よりシリーズの一つとして当園とコラボし、牧野博士の植物図をあしらった手帳などを制作してきました。昨冬から5度目の商品開発を進めておりましたが、このたび5種類の新商品が完成し9月1日(金)より全国で発売開始となりました。初回より制作され毎回好評の「weeks週間手帳」の2024年版の表紙には、明治24(1891)年発刊の『日本植物志図篇』第1巻第11集に掲載された博士命名のシハイスミレの植物図が採用されています。

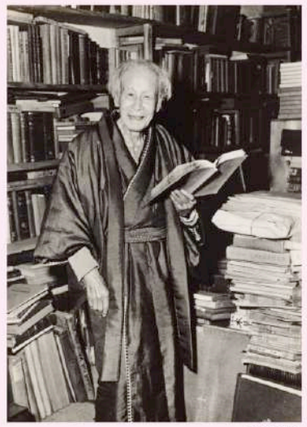
そのほか、コウシンソウの植物図をあしらった「手帳カバー(A5サイズ)」や手彩色のコオロギランの植物図を全面に使用した「下敷き(A5サイズ)」などが揃い、いずれも博士が植物研究に注いだ熱量がそこから感じられる魅力あふれる商品ばかりです。園内の牧野ミュージアムショップサクラでも販売していますので、ぜひ一度手に取ってご覧ください。

(橋本渉)

「weeks週間手帳」2024年版

第5回目

牧野文庫の蔵書から —牧野富太郎の頭脳(くら)のなか—


書斎にて

牧野富太郎が94年の生涯で植物研究のために蒐集した4万5千冊に及ぶ書籍は、当園の牧野文庫に所蔵されています。このコレクションは、植物学だけではなく、動物学、地理学、化学などの科学分野に加え、百科事典、文学、辞書や民俗、歴史や風俗など幅広い分野にわたります。牧野が20歳のころにしたためた15項目からなる勉強の心得「赫鞭一撻(ごきしゅん)」の一つが「書籍の博覧を要す」。まさにその実践の証が、牧野文庫の蔵書といえるでしょう。牧野文庫にある国内屈指の漢籍の本草書コレクションから、ここでは“ほん”の一部を紹介します。

李時珍『本草綱目』を23セット蒐集!

日本における本格的な植物の研究は、中国から伝わった薬になる天然の資源(植物、動物、鉱物)を研究する本草学にはじまりました。江戸時代の本草学に大きな影響を与えた本草書が李時珍(じちん)(1518-1593)が著した『本草綱目』です。中国から慶長9(1604)年以前に日本に伝わり、初版は通称金陵本、第2版は江西本とよばれて、中国でその実用性から度々刊行され、日本でも版を重ねて多数の和刻本が出版されました。

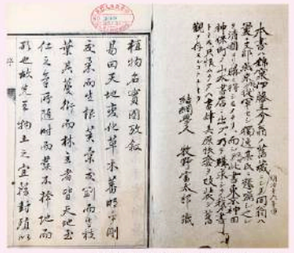
牧野はこれらを同じ版木を用いた別版や版元が違うものなど、金陵本こそはありませんが、唐本と和刻本をあわせじつに23セットも蒐集しています。本書への探求は和刻本『本草綱目』が幾通りの種類があるかにも及び、版木の系統とそれをもとに修正して刷られた種類を3系統10種類に分類。同一の名前の書籍であっても蒐集し、それらの違いを比較して系統立てて分類しているのです。のちに『本草綱目』の国訳・註解事業にも参画し、昭和4(1929)年に刊行された『頭注国訳本草綱目』では植物分類学の立場から植物の同定に関する注釈を担当しました。

牧野文庫に収蔵されている「本草綱目」

唐本の『本草綱目』 通称 江西本

註)現在は3系統14種類とされています(岡西 1977)。

『植物名実図考』は伊藤圭介旧蔵品!


『植物名実図考』の牧野の識語

中国清代の呉其濬(ごきしゅん)が著した『植物名実図考』(1848年刊)には、これまでのように本から模写したものではなく、植物を観察して描かれた図が掲載されており、中国最初の植物図鑑といわれています。幕末シーボルトに学び、東京大学教授であった伊藤圭介(1803-1901)は、博物局の小野職愨(おのもとよし)とともに和名をあてた復刻本『重修植物名実図考』を明治16(1883)〜20(1887)年に出版しました。この伊藤が本書を復刻するにあたり所蔵していた初版本が、牧野文庫に遺されているのです。本書を開くと牧野の識語(しるご)に、伊藤圭介翁の舊蔵(旧蔵)にして、自分は神保町の書店からこれを購入したとあります。牧野はこの初版から第4版までを所蔵、これらのうち4版の雲南図書館石印本は日本に唯一のもので、世界でも6点のみだそうです(青柳 1994)。

牧野は人生の半ばを過ぎたころから、漢書や日本文学に記された「実体(草木)」とその「名前」を徹底的に追求し、その対応関係を明確にする名実考を進めていきます。本書はたびたび参照され、日本の植物への漢名(中国名)のあて違いが検証されていきました。晩年に牧野が著した『植物一日一題』や『植物記』などの普及啓蒙書には、小野蘭山(おのらんざん)や貝原益軒(かいばらえきけん)ら、江戸を代表する本草学者が著した書物にある植物名の付け間違いを、これでもかとばかりに指弾し、自らが調べ尽くして間違いを正す、いわゆる「牧野節」が炸裂する論考が数多くあります。ここで思い浮かぶのが、牧野の勉強心得「赫鞭一撻」の一つ「書を家とせずして友とすべし(=書かれていることがすべて正しいと信じるのではなく、誤りを正してこそ学問の未来に繋がる)」です。

牧野が生涯かけて蒐集した蔵書は、研究を支えた資料であり、まさに“頭脳”。当園では、これら蔵書を継承するとともに、広く活用しまた研究に供することで学問の未来にも繋げていきたいと考えています。

※すべて敬称は略させていただきました。 (藤川和美)

【引用・参考文献】
岡西為人.1977.『本草概説』東洋医学選書.561 pp. 創元社.
真柳誠.1994. 目で見る漢方資料館(70)牧野文庫蔵『植物名実図考』『圃長編』の初版.漢方の臨床 41: 334-336.
小松みち・里見和彦(編).2002.『牧野富太郎蔵書の世界—牧野文庫貴重書解題—』95 pp. 高知県立牧野植物園.

見ごろの
花だより

Vol.45
Flowers in season

アテツマンサク

[マンサク科]

Hamamelis japonica Siebold et Zucc.
var. *bitchuensis* (Makino) Ohwi

展示館中庭に咲くアテツマンサク

中国地方から四国、九州に分布する落葉小高木で、相対的にマンサク、マルバマンサクは萼片の色が暗紫色～淡紫色であるのに対し、本種は黄色いことで区別がつきます。また、花に微かな芳香があることも特徴の一つです。

大正時代、牧野博士が岡山県阿哲地方で採集された標本をもとに、*Hamamelis bitchuensis* Makinoとして発表しました。種小名の*bitchuensis*は備中産という意味で、採集地に因んでいます。なおその後の大井次三郎博士の研究により、マンサクの変種とされています。

マンサクの語源の一つとしてほかの花木に先立って花を咲かせるという意味の「先ず咲く」に由来するといわれていますが、岡山県の地方名では「タニイソギ」ともよばれており、谷間でほかに先んじて急ぐように咲く姿を連想させます。葉が展開する前に枝先につける黄色の花弁と、同じく黄色い萼片の花はほかのマンサクの仲間よりも鮮やかで、見る人に明るい印象を与え、寒明けの景色のなかによく映えます。園内ではまだ休眠中の植物が多いなか、カンザクラ'河津桜'やユキワリイチゲなどとともに、2月中旬から3月にかけて展示館中庭のアテツマンサクも見ごろを迎えます。

（福川直人）

園地のできごと

Vol.45
The gardening section's news

土佐の畑 魅力ある展示のために

土佐の畑のようす

ふむふむ広場の土佐の畑エリアでは、高知県の暮らしに関わりが深い農産物を平野部から中山間地域までの風景をイメージして植栽しています。今夏は、園芸大国高知が誇る夏野菜13種類を植栽しました。そのなかでも「ナス」、「米ナス」、「シシトウ」、「ショウガ」、「ミョウガ」、「ニラ」、「オクラ」は高知県での生産量が日本トップクラスです。

シシトウについては、高知県農業技術センターに苗の導入に協力をいただき、同センターが十数年の研究を重ね開発した、全く辛味がなく一般市場では未だ出回っていない「高育交シシ15号」などを、解説パネルとともに鉢展示を行いました。

当エリアのオープン時に植栽したコウゾやミツマタ、スモモなども成長し、たわわに実ったブンタンやナオシチは、県内外の来園者の目を楽しませ、高知県の農産物のアピールも担えているのではないかと思います。

今後も土佐の畑の充実を目指し、計画的な管理を行って参ります。

（渡辺稚世）

植物の
「ナゼ？」

Vol.45
Plants' Q and A

Q 冬に葉を落とす植物と落とさない植物は何が違うの？

A 冬を越すための仕組みに違いがあります。

植物にとって寒さは大敵です。寒くなると私たちも肌が乾燥したり、しもやけや凍傷などを起こしたりしますが、植物は低温によって植物体内をめぐる細胞液が凍ったりすることで葉や枝に栄養を送ることが難しくなり枯れたりします。そこで植物が行っている寒さ対策の一つが葉を落とすことです。

熊は餌が少ない冬に冬眠をすることでエネルギー消費を抑えますが、葉を落とす植物も葉を落とすことで、必要最小限のエネルギーで冬を越す工夫をしています。では葉を落とさない植物はどのようにして冬の寒さをしのぐのでしょうか？

一つは厚着すること、もう一つは不凍液をつくることです。冬越しする植物の葉は厚みがあったり、毛深かったりします。例えばツバキの仲間は葉が厚く表面に光沢があります。これは葉の表面にワックスなどの成分が集まっていて水分が奪われるのを防ぐクチクラ層とよばれる層があるからです。ツバキの仲間の葉はこのクチクラ層が葉の表面を覆うことで乾燥や低温による影響を受けにくくなっています。またワタチョロギのように葉の表面を細かい毛で覆うことで葉の周囲に空気の層をつくり、低温になることを防ぐ植物もあります。ウィンドブレーカーやダウンジャケットのようなイメージです。そのため冬の間も光合成を行うことができます。また別の植物は体内に糖や不飽和脂肪酸という低温でも固まりにくい成分をつくることで細胞液が凍ることを防いでいます。

このように植物によってはエネルギー消費を抑えることで冬越しをしたり、葉の表面をワックスに似た成分や毛で覆うことで寒さから葉を守ったり、凍りにくい成分を細胞液中につくることで冬を乗り越える工夫をしています。

（松野倫代）

左）葉がワックスのような素材で覆われている（カンツバキ）
右）葉が長い毛で覆われている（ワタチョロギ）

身近な植物を
知る

Vol.48
Plants close to us

ナンテン

[メギ科]

Nandina domestica Thunb.

雪景色の中のナンテン

冬が近くなると野山や町中で目に付くようになる小さな赤い実。秋に熟すこのナンテンの果実は長く枝に残るため冬の間楽しむことができ、「難を転ずる」に通じることから、魔除け、厄除けの縁起物として民家の周りに多く植えられています。古くから正月の飾りや料理のあしらいなどとして暮らしに彩りを添えてきたナンテンは、咳止めや食品の防腐などの目的で果実や葉が利用されてきた実用的な植物でもあります。含まれている成分には毒としての作用が強いものもあるため、家庭で安易に用いることはお勧めできませんが、多くの薬が使われるようになった現代においても、ナンテンに含まれる成分をもとに合成された化合物がアレルギー性疾患やケロイドに対する治療薬として使われています。今も昔もさまざまなかたちで人々の暮らしに根付いている植物といえるでしょう。

（白河潤一）

Staff's recommendation

スタッフに聞く!
植物園の見どころ Vol.48

栽培技術課
舞田穂波のおすすめ

温室から少年広場へ続く園路

温室を出て右手、結網山の方に進んでいくと道中にはさまざまな楽しみがあります。

道を進むとまず植物研究交流センター（愛称：ラボテラス）と50周年記念庭園を見渡すことができる場所があります。牧野植物園が紹介される際、混々山から南園を見下ろした写真が用いられることが多いですが、こちらもお気に入りの南園の風景です。サクラ類やツツジの仲間、池のほとりのメタセコイアやヌマスギの紅葉など四季折々の植物に彩られた庭園は美しく、作業へ向かう足を止めて思わず見入ってしまいます。新しくできたラボテラスともよく調和し、より一層惹かれる風景となりました。

そのまま歩いていくと左右の道沿いにはセリバオウレンやシュンラン、ヤマルリソウ、スダレギボウシなどの草本類やツツジの仲間があります。遠くに植物園を楽しむ人々の賑わいを感じながらも山の中に来たような落ち着いた雰囲気があり、ゆったりとした気持ちになります。ぜひのんびり足を止めながら、少年広場の牧野博士に会いに行ってみてはいかがでしょうか。

ラボテラスを望む南園の風景